

北海道研会報

北海道道德教育研究会

第 177 号

発行所：北海道道德教育研究会

事務局：〒004-0811

札幌市清田区美しが丘 1 条 1 丁目 2 番 10 号

札幌市立真栄中学校

TEL 011-884-6561 FAX 011-884-9485

発行人：田村 明人

編集人：三上 寛 晃



「上川・旭川大会」における

確かなる成果を明日へ

第 59 回北海道道德教育研究大会「上川・旭川大会」

大会長 田村 明人

(札幌市立八軒西小学校校長)

第 59 回北海道道德教育研究大会「上川・旭川大会」を盛会のうちに終えることができましたことを、大変嬉しく思います。改めまして、「上川・旭川大会」開催に向けて、ご尽力いただきました大会運営委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

本大会では、大会主題「自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考え続ける児童・生徒の育成」のもと、「ともに学び、生き方をひろげる道德教育の推進」を副主題に掲げて、研究実践を積み上げ、道德科授業の「質的な充実」を目指してまいりました。今回、会場参加とオンラインでの参加の体制で開催いたしましたが、午前中の課題別分科会では、道德教育の今日的な課題をテーマに、5つの分科会に分かれて、全道各地の様々な実践が発表されると共に、多くの示唆に富む助言をいただくことができました。

そのあとの授業公開では、「生き方をひろげる道德授業」を目指し、「教師の明確な指導観」のもと、小学校では複式学級での指導を含めた5つの授業を、中学校では3つの授業を公開いたしました。授業後の分科会では、どの分科会においても熱心な議論がなされ、今後の道德科授業の「質的な充実」に向けて、たくさんのご意見を学ぶことができました。また、午後からは、十文字学園女子大学 教育人文学部児童教育学科 教授 浅見哲也先生の特別講演があり、これからの道德教育の在り方や道德科の発問の工夫について、私たちの進むべき方向を示していただきました。

このように、今回の北海道道德教育研究大会「上川・旭川大会」は、多くの成果をあげ、実り多い大会となりました。これらの成果が今後各地に広がり、全ての学校で実を結ぶものと期待しております。

さて、本大会を大成功に終え、来年度には、北海道道德教育研究大会 60 回目の節目を迎える「記念大会」が、札幌市で開催されます。札幌の地に多くの皆様をお招きし、共に学び合う充実した機会としたいと願っております。札幌市道德教育研究会の皆様には、大変なご苦勞をおかけしますが、全道のサポート体制の下、今できることを確実に進めながら、共に準備を進めていきたいと思っております。

結びになりますが、本大会開催にあたり、ご指導を賜りました十文字学園女子大学教授 浅見哲也先生、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 井上結香子先生をはじめ、北海道教育委員会・旭川市教育委員会をはじめとする各教育関係機関並びに諸団体の皆様、大会会場校をお引き受けくださいました旭川市立緑が丘小学校と旭川市立緑が丘中学校の皆様、並びに研究を支えていただいた上川管内道德教育研究会の皆様、大会運営を支えていただいた運営委員長 内藤奏子校長先生はじめ運営委員会の皆様に、心より感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。



上川・旭川大会の開催を終えて

第 59 回北海道道德教育研究大会上川・旭川大会
運営委員長 内藤 奏子

皆様のお力添えを賜り第 59 回北海道道德教育研究大会上川・旭川大会が盛会のうちに終了できましたことに、心より感謝申し上げます。御多用の中、多くの御来賓の皆様をはじめ、大会での御講演は元より、上川管内道德教育研究会と旭川市教育研究会の会員へ向けた 7 月の学習会を開催いただきました十文字学園女子大学教授 浅見 哲也 様に深く御礼申し上げます。さらに、課題別分科会での発表、授業公開および授業別分科会、各分科会運営、御助言を御協力いただきました皆様方、当日の協議に熱い議論を交わしていただきました御参会の皆様方に重ねて御礼申し上げます。

この度の上川・旭川大会では研究主題を「ともに学び、生き方をひろげる道德教育の推進」とし、学年や校種、地域を問わず誰もが参加できる「明日の授業につながる学習会」を根幹として教師の学びと実践を重ねてまいりました。特に上川管内で課題となる複式道德授業実践や、ICT を活用した道德授業実践に部員同士が熱く議論を交わしました。この取組は上川管内を越え宗谷管内で道德の授業づくりに関心をもつ教師とつながることができました。

本大会の開催にあたり、御指導、御支援を賜りました皆様には、再度、心より感謝を申し上げ、結びの言葉といたします。ありがとうございました。

第 59 回北海道道德教育研究大会上川・旭川大会を終えて

～授業者より～

「全道研の授業を振り返って」 道教育大附属旭川小学校 齋藤 梓伸

「花さき山」や感動、畏敬の念など、難しいとされる内容をチャレンジできたこと、研究の具体を評価いただけましたことは、足を運んでくださった方をはじめ、支えてくださった上川・旭川道德研究会、本校の児童、同僚の自己犠牲の伴う思いやりがあったからだ振り返っています。「だれかのために」という心や行為がこの世に溢れていくことを願い、この様な機会をいただけましたことを心から感謝申し上げます。



「全道研の授業を振り返って」 旭川市立緑が丘小学校 小林 知晃

今回の授業づくりでは多くの先生方からご助言を頂くことができ、大変学びの多い時間となりました。本大会に先立ち、十文字学園女子大学 浅見 哲也 様には学級で授業もしていただき、私とともに、子供たちも多くのことを学ぶことができました。授業後の分科会では、経験豊富な先生方からのご意見が、新しい気付きとなりました。このような機会を頂いたことに感謝申し上げます。今回の学びを自身の成長に繋げ、これからの授業実践に活かしていきたいです。



「全道研の授業を振り返って」 当麻町立当麻小学校 小谷 颯汰

展開の場面では、実態に応じた発問を工夫し、道德的価値についての考えを深められるようにしました。また、「ハート」を操作して話し合うことによって、時間の経過や心の距離をつかませながら考えさせることができました。さらに、児童の思考をつなぎ合わせたことで、児童自身の考え「友達を思う心」の変容が見られました。課題として、問題意識をより強くもてるような導入の工夫や児童の思考を整理しやすいような構造的な板書をしていく必要がありました。



「全道研の授業を振り返って」 旭川市立永山小学校 牧野 広太

卒業間近に、道德の授業とは「過程の質を高めること」だと教えてくれた子が、かつていました。それ以来、私自身もそこに道德的価値を求めてきました。今の学級の子たちは、納得解の基準として、どうしたら「みんなの幸せ」につながるのかということを考えています。今回の授業を通して、子どもたちが相互理解に至るまでの質を少しでも高め、寛容さを学ぶ中からお互いを高め合う可能性に気付く素地が養われたのなら、意義深いものです。



「全道研の授業を振り返って」 幌加内町立幌加内小学校 新重 佑樹

学年別の指導は、二つの教材を扱うので大変なこともあります。また、「異学年同士で考えの交流ができる」ことは、複式授業でしかできない良さでもあります。また、教師が児童と密に関われない分、学習リーダーを中心とした児童の主体性に、対話等を委ねられるのも、複式授業で培うことができる力なのかもしれません。チームで作った道德における複式授業の在り方について、これからもよりよい方法を模索していきたいと強く感じました。



「全道研の授業を振り返って」 旭川市立愛宕中学校 大城 利之

初めに、お忙しい中指導案検討やプレ授業に参加し、ご助言ご指導をいただいた先生方にお礼申し上げます。ありがとうございます。今回、全道研の授業者をさせていただき、授業作りや発問の仕方、ICTの活用など多くのことを学ぶことができました。また、何より授業後に生徒と話をすることで「道德は楽しい」といった感想を聞かれたのが1番の成果だったと思います。今後も、生徒と共に成長できるよう学び続けていきたいと思っています。



「全道研の授業を振り返って」 旭川市立緑が丘中学校 松尾 優

中1『裏庭のできごと』の教材を通し、誠実に生きようとする心情を育む授業を行いました。生徒自身の考えや「どうありたいか」という理想の交流場面にチャットを用いたことで、生徒は、考えをありのままに伝え、他の意見を受け入れ、本時の価値に多面的・多角的に迫っていたと思います。また、ICTは「この目的の為に有効か」という視点をもって活用することが大切だと実感できました。今回の貴重な機会に、感謝申し上げます。



「全道研の授業を振り返って」 旭川市立北門中学校 田辺 修司

教員人生の中で、このような大きな規模で授業をさせていただけることはきっと最初で最後の機会だったと思います。そんな一世一代の機会を、大好きな3年4組の子ども達と迎えられることに喜びを感じています。いつも通り、そして、いつも以上に熱心に授業を受けてくれたこと、私に対して得意の応援歌を歌ってくれたこと、授業前に円陣を組もうとしてくれたこと、すべてに感謝です。

これからも道德科授業の実践研究に力を注いでいきます。



上川・旭川大会 特別講演会

演題：「よりよい生き方を考える 道徳科の発問の工夫」

十文字学園女子大学教授

前文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

浅見 哲也 氏



道徳科の質的転換を図る上で、これまで行われてきた一般的な学習指導過程から再考することができた時間となりました。中でも印象に残っているものは、2つの「道徳科の授業のタメ」です。1つ目は、導入から展開へと向かう過程において「問題意識をもてるようにするためのタメ」を大切にすること、2つ目は、他者理解から価値理解へ向かう過程において「道徳的価値の自覚を深めるためのタメ」を作ることです。いずれも、児童生徒を誰一人取り残すことをなく、1時間のねらいの達成に向かい深めていくための手立てとなるとお話いただきました。また、道徳教育と道徳科を循環させるような教育活動を行ってほしいと御指導いただきました。

大会記録

